

## 第82号 「むごい教育」

令和2年8月4日

私はNHKの大河ドラマを欠かさず見えています。コロナの関係で放送休止がりましたが、大河の神髄と言える戦国時代を扱っている今年の「麒麟が来る」も、毎週楽しみにしています。オープニング音楽は壮大で非常に格好良い曲ですが、聴くと「ロッキーのテーマ」を思い浮かべてしまうのは私だけでしょうか。

さて、戦国大名として必ずと言っていいほど取り上げられる人物に、今川義元がいます。義元は公家かぶれをして馬にも乗れない軟弱な武将として扱われることがほとんどです。二万人を超える大軍を擁していたにも関わらず、たった二千人の織田信長軍に桶狭間で討ち取られたことが、マイナスイメージに繋がっていると思われます。しかし実際は、「街道一の弓取り」つまり「東海道一の武将」と言われ、今川家の最盛期を築いた人物です。

その義元には、教育界でも度々語られる次のような逸話が残っています。

『徳川家康がまだ松平竹千代と呼ばれていた頃、当時の習わしに従って竹千代を人質に取った義元は、「竹千代にはむごい教育をせよ。」と家来に命じました。数日後、義元は家来を呼んで竹千代の様子を尋ねました。家来は得意気に、「早朝に起こし、駆け足で行動させ、粗食を与え、休憩もほとんどとらせず、昼は馬術や剣術、夜は学問と、非常に厳しくしております。」と答えました。それを聞いた義元は、「それはむごい教育ではない。」と語気を荒げて怒りました。「朝は好きなだけ寝させよ。山の幸や海の幸あふれる贅沢な食事を三食与えよ。武術や学問は無理強いするな。本人が望むものは何でも与えてやるが良い。そうすれば、大概の人間は駄目になる。』

現代は物にあふれ、クリックすれば欲しい物が手に入る世の中です。不便なことから解放され、便利なのがどんどん増え、コンピューターや人工知能の進化によって自分で考えなくても答えが出る時代です。義元流の「むごい教育」を行うための条件が見事に揃っている環境だと言えます。

「むごい」とは「残酷、無慈悲、悲惨」という意味です。子どもに食事を与えない、暴力で子どもの心を支配するなどのいわゆる児童虐待は、文字通り「むごい教育」です。しかし、辛さや苦しさを乗り越える厳しさを経験させず、甘やかせてばかりいても、結果的に「むごい教育」になってしまう可能性があるということ、義元の逸話は表しています。

私は我が子の子育ては終わってしまいました。今のところ、「むごい教育」という結果にはなっていないと信じています。我が子たちがどう思っているか、本当のところはわかりませんが…。